



## 6/18 鮎の漁獲量拡大を願ってー 最上川で鮎の放流活動

6月18日と19日の2日間にわたり、西置賜漁業協同組合白鷹支部(小林秀正支部長)による鮎の放流活動が行われました。

この活動は、近年、カワウやブラックバスなどの食害により、鮎の漁獲量が減少していることから、漁獲量拡大を目的として毎年行っており、今回は、最上川流域数力所(東根、荒砥、鮎貝)で、約290kgの鮎の稚魚が放流されました。

組合員らの手により丁寧に放流された鮎の稚魚たちは、勢いよく広大な最上川へと泳いで行きました。



▲組合員らの手によってやさしく放流されました

## 6/20 恒久の平和を祈る 令和7年度白鷹町戦没者追悼式

この日、「白鷹町戦没者追悼式」が、町の中央公民館にて開催され、式典には遺族会を中心に約90名が参列し、850名を超える町の戦没者に黙祷や献花を捧げてご冥福を祈りました。

白鷹中学校3年生の佐藤絃稀さんと高橋柚妃さんよりメッセージが捧げられ、平和への誓いを新たにしました。式典後、クローリングセレモニーとして町内保育園・こども園の年長児64名が祈りを込めた素晴らしい合唱を披露しました。

また、6月10日から20日の期間で、戦後80年戦争関連資料等展示を町民ラウンジ等で行い、多くの方にご覧いただきました。

- ▶すばらしい歌声を披露した年長児の皆さん
- ▼平和へのメッセージを述べる佐藤さん(左)と高橋さん(右)



## 6/29 消防ポンプ操作の技術力向上をー 白鷹町消防団訓練査閲

この日、白鷹町消防団(佐藤貴光団長)による令和7年度消防団訓練査閲が、白鷹町役場駐車場にて開催されました。

この訓練は、消火ポンプの確実な取り扱いと基本動作を身につけるとともに、消防団員の技術力向上と士気高揚を目的に行っているものです。

有事に備え、これまで幾度となく訓練を重ねてきた団員たち。本番は、町民の方々が見守る中、ポンプ車、全自動積載車、小型ポンプごとに訓練が行われ、出場した団員は、ひとつひとつの動作を迅速かつ確実にこなすなど素晴らしい操作技術を披露しました。



▲火点の標的めがけ迅速かつ正確に放水を行う団員



6/4 家庭の負担軽減を図るために  
荒砥高等学校でデリバリー型学食

令和4年5月より始まった荒砥高等学校のデリバリー型学食。今年度もたくさんの高校生にご利用いただいております。

これは、弁当を用意する家庭の負担軽減を図ることを目的に、鷹野湯温泉パレス松風に協力をいただきながら実施しているものです。週に2回、通常750円の弁当を自己負担額300円で購入でき、差額は町が負担しています。昼休みになり生徒たちは弁当を受け取ると、「とてもおいしい弁当に感謝しています」と嬉しそうに頬張っていました。荒砥高等学校の皆さん、ぜひデリバリー型学食をご利用ください。



▲おいしそうに弁当を頬張る生徒

6/10 農業の持続可能性を確保する取組が評価され  
姫城中川ファーム(株)が東北農政局賞を受賞

東北農政局では、GAP※等をはじめとする環境保全型農業の取組を通じて、持続可能な農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改善等に取り組む農業者等に対し表彰を行っています。

このたび、姫城中川ファーム株式会社(中川剛代表取締役社長)は、生産工程管理の改善による作業の効率化や、農場の衛生対策の徹底により家畜伝染病等の発生を防止し、安全・安心で高品質な米沢牛を生産している点が高く評価され、GAP部門にて東北農政局長賞を受賞されました。この日、東北農政局より賞状が手交されました。受賞誠にありがとうございます。



▲賞状を手にする姫城中川ファーム(株)の皆さん

※GAPとは、農業における食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことを指します。

6/12 園庭に色とりどりの花が咲き誇る—  
さくらの保育園で植栽活動

この日、白鷹町土地改良区が主催する植栽活動が、さくらの保育園で行われました。

マリーゴールドやサルビアなど、色とりどりの花に目を輝かせた園児たち。3つの花を選びそれぞれのプランターに1株1株丁寧に植えました。

プランターへ植え終わると、乾いた土にたっぷり水を与え、お日さまがいっぱい当たる園庭に並べられました。「きれいなお花がいっぱい咲くといいな」と願いを込めて、愛情がたっぷり注がれている花々は現在も元気に咲き誇り、園庭を鮮やかに彩っています。



▲花が落ちないように、やさしく丁寧に植えることができました